視点・論点

2021 年 1 月

非財務情報開示の組織的な融合への期待

松山 将之

年初のコラムでは、10 大ニュースに代表される 1 年の振り返りや、今年 1 年を占うようなパターンが代表的である。しかし、その場合、今年は Covid19 について語ることになってしまい新年から暗い雰囲気が漂ってしまう。また、私は、経済を専門にしているわけではないので、2 次的、3 次的な情報をもとに語ったとしても説得性にも欠けてしまうであろう。

そこで、2020 年に起こった私自身の専門である企業開示に関連した話題を取り上げたい。その中でも私が特に注目したのは、11 月に公表された International Integrated Reporting Council（国債統合報告委員会 以下 IIRC）と Sustainability Accounting Standards Board（米国サステナビリティ会計基準審議会　以下 SASB）の合併である[1]。これまでもルールセッターが、フレームワーク自体を改定することは度々あったが、世界的に知名度のある組織が合併に至ることはなかった。

ここ数年、ESG 投資と企業開示との関係で議論されてきたのは、非財務情報の有用性と質の問題である。企業によって開示された非財務情報の有用性は、多くの研究や調査報告により明らかにされており、情報作成者である企業だけではなく情報利用者である投資家にも受け入れられてきている。しかし、非財務情報の質の問題に関しては、従前よりも複雑化し、更に深刻化しているように思われる。その背景として、非財務情報に関する様々なフレームワークが浸透し企業開示にも利用するようになったことが要因であると考えられる。１つの情報に対して、定義の異なる開示がおこなわれ、結果として企業間の比較が難しくなるようなケースなどは、典型的な例であろう[2]。最近では、情報利用者や情報加工者がその違いを理解できるように、フレームワーク間の整合性についての調査や分析が増えてきたことは、この点が問題視されていることの証左であろう[3]。分析や調査結果が浸透すれば、時間はかかるかもしれないが、非財務情報の質的な問題の改善につながることが期待されている。

しかし、IIRC と SASB の合併は、整合性分析を通じた開示フレームワーク間の“ゆるやかな”統合よりも一歩先に進んだものとして評価できる。IIRC の提唱する国際統合報告のフレームワークは、世界で利用されることを想定しており、プリンシプルベースの開示フレームワークの代表格である。企業活動の諸元を資本によって定義し、財務情報と非財務情報を統合するというコンセプトは広く認知されている。一方、SASB は、米国企業の非財務情報の開示のために業種別にマテリアリティを定義し、KPI によって定量化を行ったパイオニアである。現在では、米国以外の先進国でも非財務情報利用の成功モデルとして、SASB の取組みは、高く評価されている[4]。IIRC と SASB の両組織とも非財務情報開示のルールセッターである点は共通しているが、対象となるユニバースや考え方のコンセプトは異なっている。前者のフレームワークは、企業のストーリーを重視する定性的な情報開示の枠組みであり、後者のフレームワークの開示は、業種別の KPI として定量化し、既存の財務情報との接続を目指すという特徴をもっている。

「定性」と「定量」、「国内」と「グローバル」と両組織の目指した方向性から考えれば違和感を持つかもしれないが、企業開示情報の質的の向上の観点から見れば、実は理にかなった合併ではないかと考える。IIRC のようなナラティブな情報開示は、時系列情報としての連続性や企業間の比較の点で情報利用者から問題があると指摘されてきた。また、SASB におけるマテリアリティや KPI については、米国市場以外に上場している企業や米国以外の国々でも準用することは可能であるが、国際的な利用を想定して策定されたものではない。これらの課題は、ESG 投資がグローバルに進展するに従って、ルールセッターが当初に目指したコンセプトが足枷となり結果として組織の発展を阻害していたのではないだろうか。プレスリリースでは、明確には記載されていないが、双方の組織が抱えている課題を補完することを目的とした合併であれば、非財務情報開示フレームワークのグローバルスタンダードになる可能性は大いにある。そこから更に、これまで議論されてきた非財務情報開示に関する課題を解消するような新しいフレームワークが生まれれば、現在の混沌とした状況も少しは緩和されるかもしれない。

[1] IIRCによるプレスリリース（https://integratedreporting.org/news/iirc-and-sasb-announce-intent-to-merge-in-major-step-towards-simplifying-the-corporate-reporting-system/）2020年11月25日
[2] 例えば、マテリアリティの定義は、GRI、IIRC、SASB等の開示フレームワークによって異なっている。
[3] 例えば、CRD(Corporate Reporting Dialogue)では、主なフレームワークにおける代表的な開示項目の比較分析に関する報告書を公開している。(https://corporatereportingdialogue.com/)
[4] 例えば、2009年にドイツでは業種別のマテリアル情報の開示についてSD-KPI（Sustainable Development Key Performance Indicators）STANDARDを政府公認のガイドラインとして公表しているが、そのコンセプトはSASBに倣ったものである。(最新版：http://www.sd-m.de/files/SD-KPI_Standard_2016-2021.pdf)